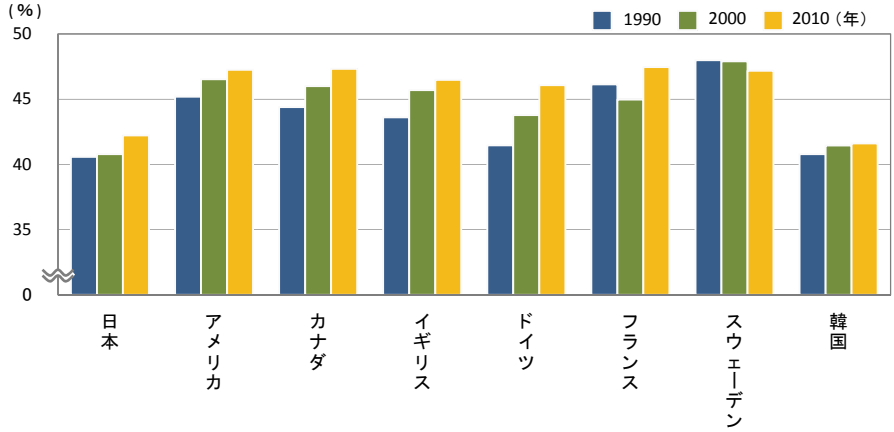
3-3　就業者に占める女性の割合



▶▶ グラフの具体的な数値は下の(参考)欄，資料出所は，「第3-4表　性別・職業別就業者数」(P.103)を参照。

(注) カナダの2010年は2008年の値，イギリスの1990年は1991年の値。ドイツの1990年は1993年の値。フランスの1990年は2003年の値。

就業者に占める女性の割合は，全体としてみれば1990年から2010年にかけて上昇傾向にある。ただし，スウェーデンは1990年時点で既に女性就業者の割合が高水準で，以降横ばいの推移となっており，またアメリカは1990年から2000年にかけて増加した後，ほぼ同水準での推移となっている。

上のグラフをみると，日本は主な先進国のなかで女性の割合が最も低いのがわかる。「2-5 年齢階級別女性労働力率(p.53)」のように，日本においては，出産・育児等のために特定の階層で女性の労働力率が低下するというM字カーブが現在でもみられることが，ひとつの要因として挙げられる。

(参考)　就業者に占める女性の割合(%)

	1990	2000	2010 (年)
日本	40.6	40.8	42.2
アメリカ	45.2	46.5	47.2
カナダ[1]	44.4	46.0	47.3
イギリス[2]	43.6	45.7	46.5
ドイツ[3]	41.5	43.8	46.1
フランス[4]	46.1	45.0	47.5
スウェーデン	48.0	47.9	47.2
韓国	40.8	41.4	41.6

(注) 1) カナダの2010年は2008年の値。